

「黒滝村総合戦略」（令和元年度分）進捗状況の効果検証結果について

1. 効果検証会議開催日

日 時	令和2年8月20日（木） 13:30～14:45
場 所	黒滝村役場 2階会議室
出席委員	外部有識者9名

※黒滝村議会への効果検証結果の報告は令和2年12月1日に実施しています。

2. 黒滝村総合戦略（令和元年度分）基本目標別事業進捗率 集計表

	事業数	事業進捗率 自己評価			効果検証会議評価		
		100～ 90% A	89～ 50% B	50%未 満 C	A	B	C
基本目標1 働きたくなる村づくり	12	10	2	—	10	2	—
基本目標2 住みよい村づくり	45 ※内評価なし 1	25	14	5	25	14	5
基本目標3 訪れたくなる村づくり	11	8	—	3	8	—	3
地方創生交付金事業	9	5	2	2	5	2	2
合 計	77	48	18	10	48	18	10

3. 計画期間の1年間延伸

総合戦略の基本的な姿勢・基本目標・具体的な施策の全てを維持した上で、計画の期間のみ「平成27年度から令和2年度までの6年間」を「平成27年度から令和3年度までの7年間」、「目標値（令和2年度）」を「目標値（令和3年度）」に修正し、数値の設定を行います。

4. 第2期地方版総合戦略の策定に向けてのスケジュールについて

(次期総合戦略（人口ビジョン）策定スケジュール)	
令和3年4月頃…	第2期黒滝村総合戦略（2022～2026）の検討開始
9月頃…	効果検証会議及び第2期策定会議（第1回）
令和4年3月頃…	第2期策定会議（第2回）

※黒滝村総合計画と同一化（同時修正）して策定。

※国の第2期総合戦略（令和元年12月策定、改訂版は令和2年12月予定）及び国勢調査の集計結果（令和3年5月予定）及び県総合戦略を踏まえて策定。（別紙 「まちひとしごと創生法の概要」を参照）

※効果検証会議における評価・意見について（検証要領）

（評価 例）

評価	評価に至った意見
A 目標達成(高い効果が得られた、進捗率90%以上) B 目標どおり(一定の効果が得られた、進捗率50%～90%以上) C 目標を下回る(効果は不十分もしくは見られなかった、進捗率50%以下)	
B	資源ごみのリサイクル量の向上のため、ごみの出し方の啓発などをもっと地域で取り組むべきではないでしょうか。

○自己評価は実績値と目安値または進捗率との差分を以下の基準により判断し、コメント（実績値を踏まえた事業の今後について）記入。

・評価の視点：施策は効果を得ることができているか。

長期的な効果が見込めるか。

事業の進め方、事業内容、実施主体は適切か。

○自己評価及び担当課コメント欄を参考として、評価及び意見を記載。

①黒滝村総合戦略(令和元年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業評価指標(KPI)	基準値		R1実績値	R1目安値	R1進捗率(実績値/目安値)	全体の進捗率(実績値/R3目標値)	自己評価(ABC)	R3目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価A B C	評価に至った意見
				年度	数値									(回答)		
1-1-1	林業労働力の確保・育成	林業への就業を希望する求職者に対し、本格的な就業、地域定着を目的として、森林整備の担い手を確保・組織化して必要な専門的技能・技術を習得させる実地研修等を実施します。	山活隊(やまいきたい)雇用者数	H27	8人	10人	12人	83%	71%	B	14人	新規的林業従事者の雇用は継続的に行っているが、長年の林業従事者の退職もあり目標達成に至らなかった。引き続き新規雇用を確保できるよう募集を行います。	林業建設課		B	
			林業に関する情報を発信した映像本数	H27	1本	8本	6本	100%	100%	A	8本	「黒滝村伝統工芸品紹介」くろたき水組み工芸や吉野杉透かし彫り等の紹介ビデオ 「空から見た黒滝村」林業の村黒滝村のプロモーションビデオを製作。	林業建設課		A	
1-1-2	生産性の高い林業の推進と山村の振興	作業現場への巡回指導・救助訓練、振動障害予防対策の促進、伐倒条件の相違に対応した伐木作業技術の現地研修会等についての事業を実施し、労働災害を防止するための最新の技術等を取り入れた機械・器具等を装備し、万全の安全対策を講じます。	林野1ha当たり林道延長(m)	H25	4.994m	5.004m	5.062m	99%	98%	A	5.088m	R1は解決済みであった用地問題で、障害が発生し事業着手できませんでした。今後は地元と連携を密にし、スムーズな事業実施となるよう事前調整を行います。	林業建設課		A	
1-2-1	農業の振興	自立経営の確立を目指し、地区ごとの実情や村の地形的条件にあわせた強くたくましい農業づくりを進めます。	農業への新規従事者数	H27	0人	6人	6人	100%	86%	A	7人	貴重な担い手として新規従事者が継続して農業に従事できるようバックアップを図りながら、自立経営が可能な農業者の育成を目指します。(村内初の認定新規就農者制度の活用を目指します)なお、R2よりクボタ塚労働組合が堂原地区において、地域の有志のサポートを受けながら、労働組合結成75周年事業として農業体験事業を実施支援しています。	企画政策課	R1実績値6人の自立経営の目的はいかがですか。バックアップの具体策は何ですか。	A	
1-2-2	商工業の振興	吉野杉透かし彫りや杉の葉染め、水組み工芸品、木材加工品等、村産材を利用した木工商品の新たな開発、商品の販路拡大を支援すると共に、移住定住を希望する者等への就業の場の確保に取り組みま	地域おこし協力隊員数	H27	0人	5人	3人	100%	83%	A	延べ6人	習得した経験を活かして関係先での雇用や起業に結びつくように支援を図ります。隊員の途中退職(家庭事情、就農、育児)が多数発生しているため、雇用条件や住環境等の対応を再調整した上で募集を行います。	企画政策課・林業建設課	地域おこし協力隊員で観光振興について、途中退職が多数発生している原因は何ですか。具体的施策(商工業の振興)の節項からすると、コメントの「観光振興については、途中退職が・・・」は関連性が無いように思えますが。	A	

①黒滝村総合戦略(令和元年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業評価指標(KPI)	基準値		R1実績値	R1目安値	R1進捗率(実績値/目安値)	全体の進捗率(実績値/R3目標値)	自己評価(ABC)	R3目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価A B C	評価に至った意見
				年度	数値									(回答)		
		す。	新たな商品開発件数	H27	0件	5件	1件	100%	100%	A	3件	山村活性化支援交付金事業として、後継者育成と木材産業活性化の取り組みを実施。令和元年～3年の3年間で自立した組織体制の構築を目指します。	企画政策課・林業建設課		A	
1-2-3	シニア世代保有技術の活用・就労支援	高齢者の保有する知識や経験を地域貢献に活かすとともに、人口の半数を占めるシニアが健康で生きがいのある生活を送り続ける支援を行います。	特産加工品奨励数	H27	1品目	7品目	6品目	100%	88%	A	8品目	食の6次産業化プロジェクトチームが白きゅうりひね漬け・佃煮・ピクルス・ベジックキー・フイナンシェ・パン・浅漬けを開発し販売中。今後も新商品の開発と販路開拓を継続します	企画政策課		A	
1-2-4	6次産業の充実強化	農山村における所得の向上、収益性の改善、雇用の確保に結びつけ、農林業の発展と農山村の活性化を推進し、商品開発戦略、価格戦略、販売戦略とマーケティングの一貫した戦略活動を展開します。	特産品加工所の整備箇所数	H27	0カ所	1カ所	1カ所	100%	100%	A	1カ所	加工所での事業の進捗管理と運営支援を通じて6次産業の充実強化を図ります。併せて空き施設(一般向け調理室)の活用が課題であることから、ラック等の整備を行い、施設の活用を図ります。	企画政策課	施設の利用が課題とはどのような事ですか。一般利用者向けとはどのような事ですか。単に施設の利用者の増加を図る事と6次産業の戦略活動は結びつくのでしょうか。	A	
1-2-5	起業家への支援の充実	村内に存在する資源等を活用し、新規に事業を起こす人に対し支援を行うことにより、就労の機会を整備します。	新規起業家数	H27	0人	1人	1人	100%	25%	A	4人	R1は1人に事業承継の起業支援を実施済み。R2は2人(植花業、鍼灸院、各500千円)に交付決定したところ。事業の実施状況を把握し、費用対効果の確認など制度の充実強化に向けて検討を進めます。	企画政策課	R2新規起業家2人に交付決定とありますがどんな起業家か、交付の額はいくらですか。費用対効果の確認とは、事業そのものを検討する事でしょうか。結果廃止もありきの意味ですか。	A	
			起業支援件数	H27	0件	1件	1件	100%	25%	A	4件		企画政策課		A	
1-2-6	女性の視点を活かした事業の推進	生産性の向上と販売手法により発展性が見込まれる事業について、現在の市場のニーズの把握や新たな販売促進を提案し、販路開拓等、新たな事業を推進します	販売促進提案件数	H27	0件	4件	5件	80%	80%	B	5件	女性アドバイザーによる販売促進支援により、幅広い年齢層に受け入れられる商品開発と、都市部での展示販売等行いました。木工品、草木染商品等の展示販売も引き続き進めていきます。	企画政策課		B	
			販路開拓を行う取り組み支援件数	H27	0件	3件	3件	100%	100%	A	3件		企画政策課		A	

①黒滝村総合戦略(令和元年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業 評価指標 (KPI)	基準値		R1 実績値	R1 目安値	R1 進捗率 (実績 値/目 安値)	全体の 進捗率 (実績 値/R3 目標 値)	自己評 価 (ABC)	R3 目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価 A B C	評価に至った意 見
				年度	数値									(回答)		
2-1-1	教育の経済的負担の軽減	保護者の負担を考慮し、教育に必要な経済的支援の充実を図り、就学・学習機会の均等を確保します。また、村外で通学の拠点を検討します。	高等学校等 自宅通学補助対象者数	H27	9人	1人	4人	25%	20%	C	5人	対象者に直接、制度の通知と申請依頼を行っています。各家庭の事情もあり自宅通学者が増加していない状況です。通学拠点の確保については、奈良県寮の紹介相談等を行っています。	教育委員会	実績値が低いのは、対象者に制度の周知がされていないと分析しておられますか。それとも、自宅通学者を増やす為、制度の通知を行うものですか。村外で通学の拠点を検討する施策についてコメントが必要と思えますが。	C	
			修学奨励金貸与者数	H27	0人	1人	2人	50%	50%	B	2人	今後も周知徹底を図り、継続実施し、返済方法の多様化(口座振替対応等)や対象者要件の緩和(世帯収入基準)を今後検討します。	教育委員会	実績値が低いのは、対象要件が厳しいと分析されていますか。対象要件そのものを緩和検討するものですか。	B	
2-1-2	健やかな成長の支援	木で遊び、楽しさや喜びを実感し、それが私たちの暮らしを支える地域や社会、産業への関心へとつながるような人づくりに努めます。	木製おもちゃで遊ぶ子ども園の乳幼児	H27	1人	2人	2人	100%	—	A	こども園の乳幼児数	こども園入園者へ入園祝いとして木製おもちゃの贈呈を継続します。	教育委員会・保健福祉課		A	
2-1-3	子どもを産み育てるサポート体制の充実	子どもと親の健康保持増進をめざした取組に努めます。	母子保健指導開催数	H27	4回	年4回	年4回	100%	100%	A	年4回	内容の充実を図りながら、今後も事業を継続実施します。	保健福祉課	コロナ対策のため三密を避けるは他の施策にも共通するものと思えます。この項のみに記す必要性は無いのでは。	A	
2-1-4	子育て世帯への支援の充実	地域の子育て支援の充実をめざして、子育て支援の人材確保や資質向上をめざした取組に努めます。	幼稚園児・保育園児以外のこども園利用者数	H26	延363件	延196件	延420件	47%	47%	C	延420件	村外申請者や乳児の一時預かり等に対応できる体制を整備しており、利用者は昨年度より増加していますが、今年度は感染症対策のため受入一時停止など目標値の減少が見込まれます。	教育委員会・保健福祉課	すべての申請者とはどの様なことですか。利用者増の対策をコメントする必要はないですか。	C	
			研修参加時の代替職員の確保	H27	2人	4人	3人	100%	100%	A	4人	継続実施に努めます。	教育委員会・保健福祉課		A	
2-2-1	こども園の充実	豊かな感性と人を思いやれる優しさ、我慢強くながられる強い心をもった子どもの育成を目指します。	在園幼児数	H27	8人	14人	12人	100%	100%	A	14人	継続実施に努めます。	教育委員会・保健福祉課		A	

①黒滝村総合戦略(令和元年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業評価指標(KPI)	基準値		R1実績値	R1目安値	R1進捗率(実績値/目安値)	全体の進捗率(実績値/R3目標値)	自己評価(ABC)	R3目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価ABC	評価に至った意見
				年度	数値									(回答)		
2-2-2	放課後対策の推進	地域の特性に鑑み、放課後も児童が生き生きと活動できる安全・安心な場の確保をします。	放課後児童クラブの一時預り利用者数	H27	5人	平均2人/月	平均5人/月	40%	40%	C	5人	全ての利用申請に対応可能な体制を整備済みです。利用者数は減少していますが、児童に合わせたきめ細かな対応を行い、対応力の向上に努めます。	教育委員会・保健福祉課		C	
2-3-1	学びあい生きがいの持てる地域社会の構築	村民の自主的な学習や交流の機会を提供し、誰もが学習できる環境整備に努めます。	生涯学習団体数	H27	2団体	2団体	3団体	67%	67%	B	3団体	生涯学習講座修了後も、自主的に継続できるように、講座の工夫や環境整備に努めます。	教育委員会	コメント再考してください。	B	
			教室参加者数	H26	213人	355人	300人	100%	89%	A	400人	引き続き魅力ある講座づくりに努めます。(今年度は感染症対策のため延期、休止等もあり、参加者数の見直しを行っています。)	教育委員会	今年はコロナ禍で教室参加者は多く望めないのではないのでしょうか。「生涯学習講座年間延べ参加者数です」は不要では。	A	
			文化祭出品者数	H27	45人	39人	50人	78%	71%	B	55人	各講座を通じた出品、各種団体への出品協力など、積極的に出品依頼を行います。	教育委員会		B	
2-4-1	健康寿命の延伸をめざして、健康的な生活習慣の普及や疾病の早期発見	診療所と連携したたばこ対策及び減塩や野菜摂取促進、がん検診の普及啓発や受診率向上にむけた取組に努めます。	健康寿命(平均自立期間)	H24	男15.56年 女24.36年	(H29) 男20.68年 女19.81年	男17年 女25年	男100% 女79.2%	—	男A 女B	延伸	女性の健康寿命延伸のため、健康教室の受講勧奨を積極的に行います。	保健福祉課		男A 女B	
2-4-2	特定健診や介護予防などに取り組む人を増やすことによる要介護状態になる人の減少	データヘルス計画の策定や特定健診受診率の向上の取組、特定保健指導の実施に努めます。また、介護予防と連携した歯科口腔保健の取組に努めます。	特定健診受診率	H26	36.4%	37.9%	60.0%	63.0%	95%	B	40.0%	受診率向上のため、電話や訪問による受診勧奨を積極的に行い、目標値達成を目指します。なお、他市町村の動向も踏まえ目標値の設定を見直します。	保健福祉課		B	
			特定保健指導利用率	H26	63.6%	33.3%	60.0%	56%	56%	B	60.0%	継続指導となっている2人の方の指導を引き実施します。	保健福祉課		B	
2-5-1	医療の確保と充実	緊急時や専門的・高度な医療を要する場合に適切に対応できるような体制の整備を図ります。	医療情報ネットワークに参加する医療機関数	H27	1医療機関	4医療機関	4医療機関	100%	100%	A	4医療機関	継続実施に努めます。	保健福祉課		A	
			歯科医師数	H27	1人	1人	1人	100%	100%	A	1人	継続実施に努めます。	保健福祉課		A	
			へき地巡回診療の年間利用回数	H27	1回	1回	1回	100%	100%	A	1回	継続実施に努めます。	保健福祉課		A	

①黒滝村総合戦略(令和元年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業評価指標(KPI)	基準値		R1実績値	R1目安値	R1進捗率(実績値/目安値)	全体の進捗率(実績値/R3目標値)	自己評価(ABC)	R3目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価A B C	評価に至った意見
				年度	数値									(回答)		
2-5-2	在宅医療の充実	在宅生活を継続できる体制づくりを図ります。	訪問看護における医療支援件数	H27	4回	8回(2人)	昨年度より延伸	100%	50%	A	16回	ニーズ通りに利用できるよう事業所の参入、職員のスキルアップに努めます。	保健福祉課		A	
2-6-1	地域福祉の充実	地域で支えあう意識を高め、自助・共助・公助による福祉活動を推進していくため、集いや相談の機能を目指した自主グループ活動の推進及び担い手の確保や育成にむけ関係機関との連携に努めます。	住民運営の場の自主グループ	H26	1グループ	6グループ	6グループ	100%	60%	A	10グループ	いきいき百歳体操クラブ立ち上げ支援目標(別紙パンフ) R2年度:2グループ R3年度:2グループ	保健福祉課	コメントの内容を説明してください。	A	
			ポイント手帳利用者	H27	58人	120人	137人	87%	91%	B	132人	体操クラブ最低参加人数3人×4グループ分(12人)を追加	保健福祉課		B	
			連携会議の開催	H27	0回	年8回	年2回	100%	80%	A	年10回	介護(社会福祉協議会)・医療(看護師)・福祉(保健師)の担当者が月に1回程度、議題を持ち寄り開催し、継続実施に努めています。感染症対策を講じながら、対面式で開催していますが、リモート環境の整備も進めます。	保健福祉課	連携会議はどのような形で開催されていますか。リモート開催ですか。	A	
2-6-2	障害者支援の充実	生活のしづらさの支援にむけて、相談の機会の充実をはかります。	相談支援利用者	H26	17人	36人	25人	100%	100%	A	36人	今後も定期訪問を継続して実施し、希望があれば適宜対応できるように努めます	保健福祉課		A	
2-6-3	高齢者支援の充実	高齢者が暮らしやすいむらづくりを目指して、移動手段の充実、医療・介護連携の推進、認知症の人と家族にやさしい地域づくりの推進、地域包括ケアシステムの構築にむけた取組に努めます。	黒滝村総人口に占める認知症サポーターの割合	H27	0%	116人	116人	100%	89%	A	131人	R2:赤滝おしゃべり会にて講座開催予定(参加者数10人) R3:新規立ち上げサロンにて開催予定(参加者数5人) 現在は開催延期していますが、感染症対策を講じながら開催する予定です。総人口減少のため今回より実数に変更します。	保健福祉課	講座や会議は今も開いていますか。別の啓発方法も検討されてはでしょうか。	A	
			地域ケア会議	H26	0回	6回	6回	100%	60%	A	10回	高齢者の個別ケースの検討を行い、地域に必要なケアシステムを作り出せるように努めます。	保健福祉課		A	
2-7-1	生涯スポーツの推進	村民がいつでも誰もが気軽にスポーツやレクリエーションに親む環境整備を行います。	生涯スポーツ事業参加者数	H26	280人	410人	400人	100%	91%	A	450人	スポーツ推進委員会を中心として、参加者の世代が偏らないように配慮し、若年者も参加しやすい事業づくりに努めます。	教育委員会	コメント再考してください。	A	
			生涯スポーツ団体数	H27	4団体	4団体	5団体	80%	80%	B	5団体	新たなスポーツに取り組む機会を増やし、新たな団体育成につながる事業づくりに努めます。	教育委員会	コメント再考してください。	B	

①黒滝村総合戦略(令和元年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業評価指標(KPI)	基準値		R1実績値	R1目安値	R1進捗率(実績値/目安値)	全体の進捗率(実績値/R3目標値)	自己評価(ABC)	R3目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価A B C	評価に至った意見
				年度	数値									(回答)		
2-8-1	防災体制・設備の強化	避難のあり方や避難所の整備、自主防災組織の育成、孤立集落対策、土砂災害防止対策などを総合的に進め、各個人の平時からの備えにつながるような施策を推進します。	消防団員数	H27	123人	119人	125人	95%	92%	A	130人	減少傾向にあり、現状の団員数維持に努めます。	総務課		A	
			自主防災組織数	H27	12団体	12団体	12団体	100%	100%	A	12団体	避難訓練などの住民参加や防災啓発を通じて、防災意識を高めていきます。	総務課		A	
			防災Wi-Fi設置数	H27	0基	5基	8基	63%	100%	B	8基	現行システムの保守経費が高額なため、別の方法で未設置地域をカバーできるシステムを検討し、防災体制・設備の強化に努めます。	総務課	何故A評価ですか。費用対効果からの設置数見直しとありますが、防災施策であれば、防災計画の検討結果、その設置数の再考により目標値の見直しを行う。等の修正が必要ではないでしょうか。	B	防災体制強化の目標値に対して、「費用対効果」を持ち出すのではなく、方法論等で効果検証が必要ではないでしょうか。
2-8-2	災害防止対策の推進	住民に対する災害危険箇所の周知啓発や防災情報の普及啓発等のソフト対策を推進します。	災害への高い危機意識を持っている人の割合	H26	51%	0%	0%	0%	0%	C	70%	引き続き防災啓発を継続し、次期防災計画更新資料及び防災備蓄物資計画及び防災訓練資料とするため、R3にアンケート調査を行います。	総務課		C	
2-8-3	災害時応急体制の整備	各機関・組織の連携体制を確立し、災害発生時に各機関・組織がそれぞれの役割をスムーズに担うことが可能となるような体制の構築を推進します。また、避難準備情報・避難勧告・避難指示へとスムーズに移行が可能となるよう基準を調査整備し、健常者から要配慮者までスムーズに避難が完了し避難生活ができる体制の構築を図ります。	防災行政無線等整備率	H27	100%	100%	100%	100%	100%	A	100%	R2に屋外拡声子局の有線化を実施します。なお、情報伝達体制の多重化として緊急速報の活用、衛星携帯電話の整備、移動系防災行政無線(消防系)の更新と配備箇所数増化を行い、災害時の確実な情報伝達に努めます。	総務課		A	
			災害時要援護者の個別支援計画	H27	0%	21人	25人	84%	84%	B	25人	R元年8月に村防災計画に基づく災害時要援護者の災害時支援者個別カードを調製し、本人同意を得て警察、消防、自主防災組織(各大字)、民生児童委員等と情報共有しています。新規対象者4名は、R2年7月までに調製予定です。	総務課 保健福祉課		B	

①黒滝村総合戦略(令和元年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業 評価指標 (KPI)	基準値		R1 実績値	R1 目安値	R1 進捗率 (実績 値/目 安値)	全体の 進捗率 (実績 値/R3 目標 値)	自己評 価 (ABC)	R3 目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価 A B C	評価に至った意 見
				年度	数値									(回答)		
2-8-4	安心して生活できる環境づくり	地域の防犯力の強化と高齢者・子どもをはじめ住民が安心して暮らせる地域づくり、犯罪の起こりにくい環境づくりのため、また、警察との連携、情報提供等被害解明にも役立てるため、防犯カメラを設置し犯罪を抑止します。	防犯カメラ設置箇所数	H27	0カ所	2カ所	3カ所	67%	67%	B	2カ所	防災Wi-Fiのカメラを防犯用として計上しています。保守経費が高額であることから、目標値の見直しを行います。	総務課	現状維持ならR3目標値はR1実績値に修正では。	B	
			防犯カメラ表示板設置箇所数	H27	0カ所	4カ所	6カ所	67%	67%	B	4カ所	防災Wi-Fiのカメラ設置場所の表示板数を計上しています。表示板数についても、目標値の見直しを行います。	総務課	現状維持ならR3目標値はR1実績値に修正では。	B	
			村内設置防犯灯(街灯)のLED灯化数	H27	0カ所	延べ76カ所	延べ76カ所	100%	-	A	-	村管理箇所(集落の間)のLED化は今年度中に完了予定。地区管理箇所(集落内)のLED化補助金は全15地区へ交付完了済み。	総務課	順次更新とはLED化未完了箇所が存在する。であればR3目標値に個所数が必要では。	A	
2-9-1	豊かな自然環境の保護	災害で失われた山と川の環境を元の姿に戻し、黒滝村の豊かな自然生態系を守ります。	体験事業の開催	H27	0回	年2回	年1回	100%	67%	A	年3回	R1はサマフェスでの木登り体験や木の折り紙教室などを開催、今後も森林や水、川を守って行く機運を高めるような体験メニューを考案していきます。	企画政策課・林業建設課		A	
2-10-1	水道水の安定供給や施設の機能維持	水道水の安定供給の為、水道施設の適正な保守管理による延命化(特に鉛製給水管の敷設替え)を図り、安全な水道水を確保すると共に、飲水施設や簡水施設の統廃合などを行い、コストの低減を図ります。	有収率	H25	80.4	68.83	70	98%	86%	A	80	R1に黒滝村簡易水道施設更新基本計画(R2~R10)を定め、R2より施設の更新・改良を実施していき安全な水道水の確保に努めます。	林業建設課		A	
2-10-2	橋梁・トンネルの老朽化対策の推進	道路・橋梁・トンネルなど、インフラの老朽化に伴い、低いコストで安全性を確保できるよう、長期的視点に立った計画的・体系的な点検及び補修を実施します。	橋梁定期点検箇所数	H27	22橋	9橋	9橋	100%	56%	A	16橋	R1~R5の5か年計画で点検対象橋梁86橋の点検を順次実施します。橋梁補修についても点検結果を踏まえ実施していきます。	林業建設課		A	
			トンネル定期点検箇所数	H27	0カ所	—	—	—	100%	—	—	—	H30事業において3カ所実施、新たに5か年計画を策定。次回点検はR5に実施。	林業建設課		—

①黒滝村総合戦略(令和元年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業評価指標(KPI)	基準値		R1実績値	R1目安値	R1進捗率(実績値/目安値)	全体の進捗率(実績値/R3目標値)	自己評価(ABC)	R3目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価 A B C	評価に至った意見
				年度	数値									(回答)		
2-10-3	ごみ処理の安定・継続処理を確保するための施設整備	「3R推進(リデュース、リユース、リサイクル)」によるごみの減量と有効活用を図ります。	年間ごみ排出量	H26	135.98t	222t	211t	95%	94%	B	211t	急激に排出量が増加した黒滝森物語村に対しての料金契約を見直すことで、事業者の経営努力による減量化が進み、目標値を達成できると考えており、交渉中です。	住民生活課	「適正な料金徴収を行うこと」との記述から現行は適正でない料金徴収と読めてしまいます。文言を変えてはどうですか。適正な料金と減量化は関連しますか。	B	事業系ごみの料金徴収の確実な執行、河川でのパーベキュー客へのごみの持ち帰りやマナーアップの啓発を検討してください。
2-10-4	合併浄化槽設置及び維持管理	今後も水質を保全するため、合併浄化槽の設置及び管理を行い、同時に老朽化している合併浄化槽の改修を行います。	合併処理浄化槽整備率	H27	83.8%	86.8%	86.3%	100%	100%	A	87.0%	戸別339基、小規模集合3基を整備済み。人口減少に伴い整備箇所は減少していますが、引き続き整備を進め、水質保全に努めます。	林業建設課		A	
2-10-5	村営住宅の整備	移住定住と連携を図りながら、大規模造成ではなく自然の地形、環境に配慮した村営住宅の整備を推進します。	村営住宅整備	H27	28戸	33戸	33戸	100%	94%	A	35戸	長瀬村営住宅の全面改修を来年度までに順次実施します。新たに県道拡幅工事による立ち退き対象者への代替住宅の設計を本年度実施します。新たに集合住宅の整備を検討します。	林業建設課		A	
2-11-1	過疎集落支援対策の推進	村民同士のコミュニケーションを図り、高齢者を支えていく地域コミュニティの形成を支援します。	地域づくり協議会の設置	H27	0団体	0	0	0%	0%	C	1団体	集落支援員を雇用し、地域の事情に応じた過疎集落支援対策を実施します。	企画政策課		C	
			地域内サークルへの補助	H27	1団体	1団体	2団体	50%	33%	B	3団体	各地域のサロン等に保健福祉課と連携して、健康づくりサークルの立ち上げを行います。	企画政策課	協議とありますが、団体数増の協議の内容を少し具体的に記述しては如何でしょうか。	B	
			集落周辺環境整備	H27	年間20カ所	延べ78カ所	延べ90カ所	87%	78%	B	延べ100カ所	地元要望も毎年一定数あり、効果も高いことから、今後も継続実施します。	林業建設課		B	
3-1-1	地域資源を活かした観光の振興	観光施設を観光拠点施設として位置づけ、自然とのふれあいの中で楽しむことができる滞在型の観光レクリエーションの場として入り込み客の増加を図ります。	新たな交流により増加する観光客入込客数	H27	年間92,000人	年間228,490人	年間230,000人	99%	100%	A	年間207,000人	地域の魅力を伝える情報発信事業の展開を図ります。夏季の観光客数増加により、道の駅周辺で交通渋滞が頻発していることから、再整備計画を策定し整備を進めます。	企画政策課		A	
			宿泊客数	H27	年間4,500人	年間12,698人	年間12,500人	100%	99%	A	年間11,250人		企画政策課		A	

①黒滝村総合戦略(令和元年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業 評価指標 (KPI)	基準値		R1 実績値	R1 目安値	R1 進捗率 (実績 値/目 安値)	全体の 進捗率 (実績 値/R3 目標 値)	自己評 価 (ABC)	R3 目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価 A B C	評価に至った意 見
				年度	数値									(回答)		
3-1-2	交流人口の拡大	村内交流人口の増をはじめ、新たな人の繋がりを拡大させます。	村内交流人口	H27	年間50人	850人	延べ年間900人	94%	95%	A	900人	サマフェスやコンサート等のイベント以外にもスポーツ合宿や歩こう会などで村内を訪れる人が増えており、引き続いてリピーターの拡大に努めます。但し、しばらくの間は感染症対策のためイベント等を中止します。	企画政策課		A	
3-1-3	文化財の保護の推進	文化財の保全と保護に努めるとともに、住民と行政が一体となった保全活動の推進と情報発信を行い、保全機運を醸成します。	民俗資料館来館者数	H26	100人	500人	550人	91%	91%	A	550人	森のコンサート、各種ワークショップなどを行い、併せて施設の清掃、整備を行い、来館者数増加に努めます。但し、しばらくの間は感染症対策のためイベント等を中止します。	教育委員会・企画政策課	今年はコロナ禍で来館者数は多く望めないのではないのでしょうか。	A	
3-2-1	移住・定住の促進	仕事と住居をセットで提供し既存のコミュニティが維持できるような人口増加を促進します。	移住・定住世帯数	H27	1世帯	延べ28世帯	延べ25世帯	100%	74%	A	延べ38世帯	地域おこし協力隊員の雇用が増加要因であることから、ニーズに応じた住宅の整備、空き家の活用を進めます。	企画政策課	住宅の整備と併せ空き家の活用を記述する必要はないのでしょうか。	A	
			仕事と住居を紹介するツアーの開催数	H27	0回	0回	0回	0	0%	C	年間2回	他市町村の先事例を見ながら検討します。地域限定旅行業者制度の導入も含めて検討を進めます。同時に魅力的な空き家の掘り起こしを進めます。	企画政策課		C	
			移住・定住の窓口となる団体数	H27	0団体	0団体	1団体	0%	0%	C	1団体	地域おこし協力隊や女子会等と協力して団体設立を目指しながら、村内事業者への業務委託も含めて検討を進めます。	企画政策課		C	
			移住・定住の情報を発信した映像本数	H27	1本	10本	10本	100%	71%	A	14本	林業従事者の地域おこし協力隊員にスポットを当てて、仕事と生活を紹介する映像の製作を進めています。(美しき日本1、(株)飛騨産業1、こまどりケーブル(株)1、地域おこし協力隊制作3、樽丸紹介1、吉野地域日本遺産協議会1、「黒滝村伝統工芸品紹介」、「空から見た黒滝村」)	企画政策課		A	

①黒滝村総合戦略(令和元年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業 評価指標 (KPI)	基準値		R1 実績値	R1 目安値	R1 進捗率 (実績 値/目 安値)	全体の 進捗率 (実績 値/R3 目標 値)	自己評 価 (ABC)	R3 目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価 A B C	評価に至った意 見
				年度	数値									(回答)		
3-2-2	空き家対策 の推進	空き家台帳を整備し、所有者等に対し積極的な空き家情報バンクへの登録を呼びかけます。	空き家情報バンク登録数	H27	8戸	延べ27戸	延べ25戸	100%	90%	A	延べ30戸	R2から特定非営利活動法人空き家コンサルに事業委託し、登録住宅・登録者の再登録と仲介業務を行っています。問い合わせや登録者数が増加傾向にあることから、物件の募集を進めます。	企画政策課		A	
			体験住宅の整備数	H27	0戸	0戸	1戸	0%	0%	C	2戸	移住環境向上のため、移住体験住宅の整備を進めます。空き家改修事業として計画していましたが、耐震性等の問題から難しく、事業計画を見直します。	企画政策課	移住体験住宅はいつ出来上がるのですか。	C	
			移住者が集う場所の設置数	H27	0戸	1カ所	1カ所	100%	100%	A	1カ所	移住者が集まりやすいサロンとして整備を進めます。	企画政策課		A	

②地方創生交付金事業(令和元年度進捗分)効果検証シート

節項 番号	交付対象事業 の名称	施策概要	重要事業評 価指標 (KPI)	基準値		R1 実績値	R1 目安値	R1 進捗率 (実績値 /目安 値)	全体 進捗率 (実績値/R3 目標値)	自己評 価 (ABC)	R3 目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前 質疑	評価 A B C	評価に至った意見
				年度	数値									質疑内容		
1	平成27年度 地方創生加速 化交付金 「黒滝・森物 語村」を活用し た地域間交流・ 情報発信拠点 機能の充実・強 化事業	村の観光拠点である黒滝 森物語村において、村民 主導の情報発信を行うため の体制を構築し、魅力ある コンテンツを検討し、情報 発信する。 ・ホームページ開設(リ ニューアル) 2,000千円 ・情報発信スペースの整備 (壁面改修) 930千円 (平成28年5月末事業完 了)	観光客入込客 数	H26	92,000 人	年間 228,490 人	年間 230,000 人	99%	100%	A	年間 207,000 人	地域の魅力を伝える情 報発信事業の展開を図 ります。	企画政策 課		A	
			宿泊客数	H26	4,500 人	年間 12,698人	年間 12,500人	100%	100%	A	年間 11,250人	地域の魅力を伝える情 報発信事業の展開を図 ります。	企画政策 課		A	
			株式会社黒滝 森物語村正社 員数	H26	7人	正22人 パ40人	正20人	100%	95%	A	正22人	地域の魅力を伝える 情報発信事業の担い 手育成に努めます。	企画政策 課		A	
2	平成29～令和 元年度 地方創生推進 交付金 「食」を通じた 地域活性化～ 黒滝わくもりプ ロジェクト～	村民中心で結成した食の6 次産業化プロジェクトチ ーム「ねえのごっつお」が、黒 滝白きゅうりを中心とした季節 野菜の特産品の開発・ 普及から加工・販売を手が け、農業を中心とした地域 振興を目指します。 ・H29試験営業経費(賃金) 2,170千円(交付金1,085千 円、H29.6～H30.3) ・H30本格営業経費(賃金・ 活動助成)5,629,644円(交 付金2,814,822円) ・R1本格営業経費(賃金) 3,595,500円(交付金 1,797,750円)	6次産業事業 売上(千円)	H28	0	1,135千円	1,700千円	67%	27%	B	2,000千円	R2から民間団体として 活動を再スタートしてい ます。自立化に向けて 不採算事業の取り止 め、新商品の開発を支 援しています。交付金事 業は終了しましたが、自 立化が難しく、方向転換 を検討しています。	企画政策 課	交付金事業と自立化 について、交付金事 業の期限と自立の見 通しは如何ですか	B	収支から判断すると自立 化はかなり難しい状況で すが、6次産業化事業の 充実強化という目的で事 業継続の必要もあります。 引き続き自立化に向けて の支援と進捗の管理が必 要ではないでしょうか。
			黒滝白きゅうり 生産量(t)	H28	0.6t	1.9t	4.8t	40%	58%	C	5.0t	生産量が低下してい ますが、高齢者の生 きがいづくり(交付金 事業の目的の一つ) として栽培支援を行 います。	企画政策 課	「高齢者の生きがい づくり」とありますが、 交付金事業の施策 概要から外れること になりませんか。	C	
			黒滝白きゅうり 生産農家(戸)	H28	41戸	46戸	46戸	100%	98%	A	46戸		企画政策 課		A	
3	平成30年度 地方創生拠点 整備交付金 生産性革命 に資する6次産 業拠点施設整 備事業～黒滝 わくもりプロ ジェクト～	空き校舎となった旧中学校 1階部分を6次産業拠点施 設として整備し、生産効率 の向上と高付加価値化を 図り、販路の拡大と自立化 につなげ、地域経済の好 循環の実現を目指す。 ・6次産業拠点施設整備事 業(施設整備工事) 98,384,760円(交付金 42,150,720円) ・(備品購入)11,464,200円 (交付金5,148,727円)	整備施設での 6次産業事業 売上(千円)	H29	0	1,135千円	1,700千円	67%	0%	B	2,000千円	自立化に向けて不採算 事業の取り止め、新商 品の開発を支援してい ます。	企画政策 課		B	
			整備施設での 食品加工品目 数	H29	0	3品目	1品目	100%	0%	A	3品目	フィナンジェ・パン・浅漬 けを開発し販売中。 今後も新商品の開発 と販路開拓を継続し ます。	企画政策 課		A	
			整備施設での 雇用人数	H29	0	0	0	0%	0%	C	1人	今後も事業の進捗管 理を行います。自立 後の新たな雇用の目 標値として設定してい ます。	企画政策 課	事業の自立に向けた 雇用の立ち上がりは 何年度でしょうか。	C	

黒滝村総合戦略（令和元年度分）等の効果検証会議

議事録

日 時	令和2年8月20日（木） 13:30～14:45
場 所	黒滝村役場 2階会議室
出席委員	中前政明会長、近藤美智雄副会長、岡山正博委員、辻本準委員、大和里美委員、脇阪武男委員、中井龍彦委員、亀井隆平委員、阪口孝子委員（オブザーバー） 計9名 ※欠席 森本重朝委員
事務局	辻村源四郎村長、上浦豊副村長、大谷宗弘企画政策課長、山部直華企画政策課課長補佐、浦南辰浩企画政策課係長
次 第	・村長挨拶 ・会長挨拶 ・案件 ①黒滝村総合戦略の効果検証について ②地方創生交付金の効果検証について ③その他 第2期地方版総合戦略の策定に向けてのスケジュールについて

- ・ 村長挨拶
- ・ 会長挨拶
- ・ 委員紹介
- ・ 議事録署名員の選出 → 会長指名により中井委員、近藤委員を選出
- ・ 案件
 - ① 黒滝村総合戦略の効果検証について
 - ② 地方創生交付金の効果検証について
→ 一括審議、資料に基づき事務局より説明（外部委員事前質疑を中心に説明）
 - ③ その他 第2期地方版総合戦略の策定に向けてのスケジュールについて

【岡山委員】

私の方からは7項目の事前質疑をさせていただきました。それについて、先ほどから担当課コメントで説明や修正がありましたので、私からは特にありません。

【亀井委員】

私も事前に質問をさせていただいて、修正をいただいているのですが、「2-10-3 ごみ処理の安定継続処理を確保するための施設整備」について、このコメントの書き方が引っかかってしまうのですが、「適正な料金徴収」ができていないということですか。

【事務局】

事業系ごみの収集運搬について排出者と個別に契約を結ぶケースがあり、その契約額と排出量が一致せず、適正でない状態にあるとのこと。契約見直しについて交渉していますが、かなりの量の差が出ていることから、見直しにより減量化が見込まれるとのこと。

【亀井委員】

「料金が適正でない」と行政自ら言ってしまうとだめだと思うのですね。交渉している中身は何ですか。

【事務局】

料金のごみの排出量に合うように交渉しています。

【中前会長】

家庭ごみと事業系ごみは分けて料金徴収しているということですね。その事業系ごみでも黒滝森物語村の排出量が莫大であることから、「適正な料金」ということが問題になるのですよね。

【亀井委員】

ごみの料金は条例で定めていますよね。事業系ごみの料金も定めていますか。きっちり条例で定めていないから適正でない状態になるのではないですか。

【事務局】

事業系ごみの料金も条例で定めています。森物語村はその条例で定めた金額を支払っていないということです。

【亀井委員】

そうであってもこのシートに書くべき言葉ではないと思います。もう少し表現を変えた方が良いと思いますが。

【事務局】

「交渉中」となっているのは、黒滝森物語村が3、4年前から急激に来客が増えており、ごみの排出量も何倍にも増えていることから、当初のお客さんが少ないときの契約額と開きが出ている状態を是正する交渉をしているところです。

【中前会長】

先日のお盆の時期にもお客さんが大変多かったと聞いています。バーベキュー客のごみもかなり多くなったのではないですか。

【事務局】

森物語村だけでなく道の駅についてもお客様が増えており、交通渋滞も起きるぐらいですが、かなりのごみを持ち込まれている状況です。持ち込まれたごみでもお客さんが増えた分、売上も増えているので、今までの料金徴収の方法が甘かったといえればそれまでですが、担当課の方でもその努力をしているところです。

【大和委員】

文章の問題かと思いますが、例えば、「急激に排出量が増加した黒滝森物語村に対して料金契約を見直すことで」としてはいかがでしょうか。

【事務局】

参考にして修正いたします。

【脇阪委員】

私たちが車の中のごみをコンビニのごみ箱へ排出することがありますが、道の駅や森物語村も同じ事でしょうか。

【中前会長】

黒滝村としては河川でのバーベキューを禁止しないのですね。天川村では条例を作っていますが。最近家の周りの河川でバーベキューをする人が増えています。他の地区でも増えてきていると思います。ごみさえ持ち帰ってくればいいのですが。

【事務局】

天川村はごみの問題もありますが、民間のキャンプ場が多く事業者保護の側面もあります。また、違反者への指導など運用の苦勞や効果が限定的とも聞いていることから、条例の整備は進んでいません。

【岡山委員】

天川村ではバーベキューをできるところをしっかりと整備していますよね。していいところと、されては困るところを分けている。

【辻村村長】

禁止している場所とされていない場所を分けるということですね。ただ、違反者に注意しても罰則もないのであまり効果がないとは聞いていますが。

【脇阪委員】

都会から家族で黒滝の川に遊びに来てもらうのはいいことだと思います。ただマナーだけのこと。ごみを必ず持ち帰るということを徹底してもらえればいいと思います。

【亀井委員】

「交付金事業2 6次産業事業売上」について、コメントは修正されていますが、実際のところはどうかでしょうか。

【事務局】

村から活動助成金を支出して活動を支援しています。今のところ6次産業だけでは自立化が難しい状況です。

【亀井委員】

交付金事業としては3年間で終了しましたが、村としては独自の助成金で活動を続けてもらいたいということですか。

【事務局】

この3年間の交付金はその後も事業が継続できるように自立化を目指して交付されています。残念ながら3年間で自立化には至っていませんが、施設整備も併せて交付金で事業していますので、自立化に向けて施設を使いながら方向性を検討する必要があるということです。

【亀井委員】

交付金事業は終了したけども、前のページの「1-2-4 6次産業の充実強化」とあるように、自立化を目指して、村としては助成金等で支援していく、ということよろしいでしょうか。

【辻村村長】

村としては自立化を目指してもらおうということで、検証して交渉中ということです。

【事務局】

主体性を持って自立化を目指すことが必要であり、交付金や助成金で成り立っている間はそこまで考えていないのが現状だと思いますし、今のままではかなり厳しいという認識は持っています。

【亀井委員】

収支を見ているとかなりの支援が必要と感じます。村としては自立に向けて助成金で支援を続けるということよろしいか。

【事務局】

その通りです。

【中前会長】

助成金があるので事業をするというのではダメだと思います。販路の開拓という問題もありますし。どのタイミングかで支援も終わる必要もあるかと思っています。

【事務局】

支援の形も大事かと考えています。例えば、黒滝こんにやくよもぎの里の場合は、道の駅でこんにやくを自分たちで作って売りたいので支援をしてほしい、と熱意を持った依頼があって行政を動かし、加工場や販売所を順に整備して、今では会社組織となっている経緯があります。ただ、白きゅうりでは年間200万円の売上もかなり厳しいものがありますの

で、もっと利益性のあるものに方向転換が必要かと思いますが、自分たちでこういう物を作りた売りたいという熱意がないと、支援ありきでは非効率な形になるので、ねえのごつつおともよく相談しながら進めていきたいと考えています。

【中前会長】

白きゅうりの生産は続いているのですか。

【事務局】

今年は11,000本の集荷量となっています。生産者の高齢化もあり生産量は計画通りには伸びていないのが現状で、販売に至るには供給量にも問題がある状況です。ただ、生産に取り組んでおられる方も多いので、高齢者の生きがいつくりという面では有効かと思えますので、その部分は支援したいと思います。

【脇阪委員】

生きがいになるかは分かりませんが、白きゅうりづくりを昨年やってみましたが難しいです。消毒や手入れなど手間がかかり、青きゅうりとは栽培の手間が違うと思います。

【中前会長】

栽培にも手間がかかりますし、漬けるにも先に塩漬けが必要となり手間がかかります。手間分が費用に反映されることで販売価格が高くなり、買い手と合わないことになってしまうかと思えます。

【亀井委員】

関連ですが、「高齢者の生きがいつくり」が交付金事業の目的の一つとコメントであります。説明をお願いします。

【事務局】

別紙の参考資料をご確認ください。事業の申請時点より6次産業化事業の目的として、売上の向上だけでなく生産に取り組む高齢者の生きがいつくりを目的の一つとしておりましたので、施策から外れるものではありません。

【中前会長】

他に意見はありませんか。

【阪口委員】

「2-6-3 認知症サポーターの割合」ですが、KPIが割合ではなく実数となっていますが、

説明をお願いします。総人口が減っているので割合にすると上がっていくことになるからとか、理由があるのですか。

【事務局】

計画当初は割合であったことから、実数は誤りであると思われます。母数をどの数字にしているのかも含めて確認して、後日修正いたします。

【阪口委員】

「2-8-1 防災 Wi-Fi の設置数」ですが、村全体をカバーするのに8基必要で今5基まで来ていますという所で、カバーできていないところがあるのに保守料が高いから目標値を減らすというのは、総合戦略として容認されることなのか、そもそも8基の設定の理由もよくわからないので説明をお願いします。

【事務局】

当初の計画では残りの3基を未設置の河川源流の笠木・栗飯谷・鳥住の3地区に設置を予定していました。ご指摘の通り、計画の見直し理由として妥当かどうかという問題がありますので、担当課と内容について協議させていただきます。

【中前会長】

残りの3地区に設置するにあたって支障等はあるのですか。

【事務局】

費用面以外ではないと思いますが。

【亀井委員】

質疑にある通り、防災に関することですので費用対効果の問題ではないと思います。防災の計画を見直した結果、他でカバーできるので目標値が5基になりました、であればわかるのですが。その部分は修正した方がいいと思います。

【事務局】

担当課と内容の修正について協議します。

【中前会長】

他に意見はありませんか。特になければ、外部有識者の評価や評価に至った意見について、どのようにすすめればよいか事務局から説明をお願いします。

【事務局】

・・・(別紙により説明)

特に意見等なければ、担当課の自己評価を評価に移し替え、評価に至った意見については先程まで質疑を頂いた内容を記入する、ということによろしいでしょうか。

【中前会長】

特に意見等ございませんか。

【脇阪委員】

事務局が取りまとめた内容でいいと思いますが。

【中前会長】

他に意見がなければ、皆さんの意見を参考にさせていただいて、事務局にあとの取りまとめをお任せしたいと思います。

続きまして「案件3 第2期地方版総合戦略の策定について」事務局より説明をお願いします。

【事務局】

・・・(別紙により説明)

【中前会長】

事務局からの説明について何か質問等ございませんか。

ないようでしたら、これにより会議を閉会させていただきます。スムーズな議事進行にご協力いただきありがとうございました。事務局に議事進行をお返ししたいと思います。

(閉会)